

(3 6 年 度)

養 鱒 餌 料 試 験

(餌 料 と 魚 体 成 分 に つ い て)

技 師 立 川 亙

ニジマスを配合の異つた餌で飼育して、その魚体成分を分析した。

供 試 材 量

- 1) ニジマス0年魚、平均体重4gを下記の通り配合の異つた4種類の餌で115日間飼育したものを。

餌 の 配 合	A	B	C	D
長 須 鯨 油	0	3, 5	1 2	3 1
ビ タ ミ ン	3, 3	3, 5	4	5, 2
ミ ネ ラ ル	3, 3	3, 5	4	5, 2
脱 脂 魚 粉	6 1, 2	5 8, 7	5 2, 5	3 8, 4
α 化 小 麦 粉 澱 粉	3 2, 2	3 0, 8	2 7, 5	2 0, 2
計	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0

- 2) 上記材料について、内臓を除いたもの。
3) 1)の材料を10日間絶食させたもの。

分 析 の 結 果

分析の結果は表に示す通りで、餌料の配合と魚体成分の間に明らかな関係がみられ、餌に油が多い程、魚体中の脂肪の量が多く、水分が少ない。脂肪と水分の間に関係があつて脂肪の多いものは水分が少ない。脂肪と水分の合計はだいたい80%位である。

表 分 折 の 結 果

		供試魚の尾数及び大きさ		水分	粗脂肪	粗灰分	残
供試材料 1	A	3	44 ^g 50	73.2	6.7	2.2	17.9
	B	3	66 52 61	71.8	8.5	2.2	17.5
	C	2	80 85	68.5	11.7	2.1	17.7
	D	3	38 51 60	66.3	17.5	3.1	13.1
供試材料 2	A	1	47	72.4	7.8	2.5	17.3
	B	1	72	72.8	7.2	2.9	17.1
	C	1	64	72.4	8.7	2.3	16.6
	D	1	48	69.1	13.6	2.2	15.1
供試材料 3	A	2	67 50	75.3	7.5	2.5	14.7
	B	2	49 50	73.8	7.9	2.3	16.0
	C	2	61 54	70.3	11.8	2.2	15.7
	D	2	62 45	67.7	16.7	2.3	13.3

内臓を除いたものでは、脂肪含有量の多い魚体程度粗脂肪が多いため、全魚体の成分と比べると、脂肪がやゝ少なく、水分がやゝ多い。

10日間絶食したものであるが、水分が1~2%多くなっているが、脂肪灰分については著明な変化は見られない。

分折の結果と味について

分折と併行して、供試魚を内臓を除いて塩焼にし、12名の人がよつて試食したところ、脂肪の多いD区の魚は油が強すぎるという理由で、不味いとする人が多かつた。10日間絶食したのものについては、餌に油を加えなかつたA区の魚は水っぽくて、著しく味が劣つた。だいたいの傾向としては、B区、C区の間関区の魚がうまいとする人が多かつたようである。